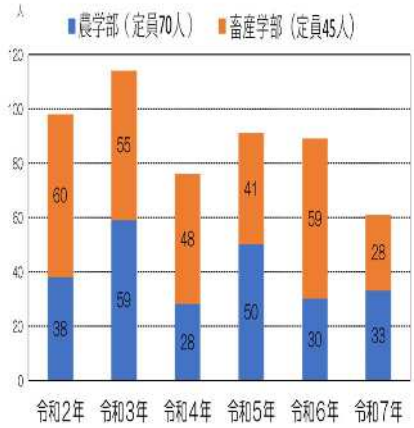


令和7年度 鹿児島県立農業大学校評価シート

R8.3.5 時点						
目標	課 題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況	次年度の課題と改善策
1 入学生 の確保	学生募集活動の強化による入試応募者の確保	少子化が進み、高校卒業生が年々減少し、農業系高校の卒業生も年々減少傾向にあるなど、高校生の絶対数が減少している。 本校の入試応募者数・定員充足率も減少傾向にあり、令和7年度は定員の5割程度の充足率であった。  養成部門の学部別 応募者数の推移	入学試験の応募数	1 学校紹介と学生募集活動の強化 (1) 高校訪問 新たなパンフレット等を作成し、本校の魅力である充実した施設、多様な資格取得、比較的安価な必要経費、4年大学への編入資格取得などを重点的にPR (2) 高校等への募集要項・募集チラシ送付 (3) 高校教諭対象の説明会の開催 (4) 農大生の出身校への訪問 (5) 進路ガイダンス等への参加 (6) SNS等を活用した情報発信 YouTube 用学校紹介動画の作成 農大ホームページ、Instagram、で学生募集やオープンキャンパス情報を積極的に発信 農業大学校の資料請求サイトの活用 (7) 校内外の販売の場を活用した学校紹介（農学部） (8) 農大のあり方検討会の開催	1 学校紹介と学生募集活動の強化 (1) 高校訪問 4～8月 延べ91回、12～1月 延べ25回 計 延べ116回 (2) 高校等への募集要項・募集チラシ送付 6月 県内外180校 (3) 高校教諭対象の説明会の開催 説明会2回（5/16、5/21） (4) 農大生の出身校への訪問 実績なし (5) 進路ガイダンス等への参加 26回（3月予定含む） (6) SNS等を活用した情報発信 学校紹介動画を作成し YouTube の県公式チャンネルで公開 ホームページや Instagram での情報発信の充実 デジタルサイネージを購入し、農大祭や販売会で学校生活動画を流してPR 新聞、テレビ等を活用した情報発信 スタディサプリ（資料請求サイト） 資料請求者 75人、うち受験者3人 (7) 校外販売の場を活用した学校紹介 47期生 3回、48期生 8回 (8) 農大のあり方検討会の開催 7回	従来の取組に加えて、「農大実践力アップ・教育高度化事業」を活用し、農業・農大の魅力を周知するためのパンフレットやPR資料の作成、農業系高校と連携した中学生への出前授業、県内外の進路ガイダンスへの参加や県内離島の高校訪問等を実施（事業活用） 進路指導の先生への働きかけ強化（高校訪問やガイダンス参加の回数増、在校生による訪問や手紙での出身校への近況報告など）
				2 オープンキャンパス等による学校PR (1) オープンキャンパスの実施 学生が案内役となったオープンキャンパスの実施 (2) オープンキャンパス参加者への意向調査の実施 (3) 高校生等の視察受入	2 オープンキャンパス等による学校PR (1) オープンキャンパスの実施 参加学生数 5/18 24人、8/3 38人、8/26 29人、2/14 18人 計 延べ109人 (2) オープンキャンパス参加者への意向調査の実施 参加学生 延べ109人 (3) 高校生等の視察受入 10校 319人	オープンキャンパスの年4回実施を継続 学科紹介・体験の充実、パンフレットやPR資料を活用した効果的なPRの実施
				3 地域振興局や同窓会等との連携 (1) 地域振興局・支庁と連携した募集活動 入試情報の送付 オープンキャンパスの対応協力 進路ガイダンスへの対応協力 (2) 農大アシスターレターによる情報提供 (3) 同窓会広報誌を活用した学校PR	3 地域振興局や同窓会との連携 (1) 地域振興局・支庁と連携した募集活動 入試情報の送付 6月 16 農政普及課（駐在含） オープンキャンパス対応協力 卒業生 9人 進路ガイダンスへの対応協力 3回（徳之島、沖永良部） (2) 農大アシスターレターによる情報提供 4回 (3) 同窓会広報誌を活用した学校PR 1回	令和9年度の農大創立50周年記念に併せた同窓会・後援会・地域振興局等との連携・PR方法の検討

<自己評価まとめ>

- ・ 評価指標「入学試験応募者数」は目標104人以上に対し、71人で前年（61人）より10人増加した。
 - ・ 高校訪問やガイダンスなど、高校の進路指導の先生や高校生に直接アピールする機会を大幅に増やしたこと、学校紹介動画作成やInstagram・デジタルサイネージなど様々な手段を活用した農大の魅力PRが功を奏したと思われる。
- （参考）令和8年度受験申込人数：71人（推薦39人＋一般A25人＋一般B5人＋一般C2人）

評価指標	目 標	実績(達成率)	達成度	達成度
1 入学試験応募者数	104人以上	71人 推薦39人 一般32人	C 68%	A：100%以上 B：100%未満～80%以上 C：80%未満～60%以上 D：60%未満

令和7年度 鹿児島県立農業大学校評価シート

R8.4.1 時点						
目標	課 題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況 ※（ ）内はR6実績	次年度の課題 と 改 善 策
2 学生教育の充実	学生の知識・技術向上	非農業系高校出身者、非農家等の学生が増えてきており、農業に関する基礎知識に格差がみられる。 コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が不足している学生が多い。	課題解決能力向上 資格取得への取組 ・全国プロジェクト発表会出場者 2名以上	1 学習能力向上への取組 (1) プロジェクト学習に対する学生の意識付けと指導強化	1 全国プロジェクト・意見発表会出場 4名(2名) ＜内訳＞ (1) 養成課程 プロジェクト発表：特別賞、優良賞 意見発表：特別賞 (2) 研究過程 プロジェクト発表：最優秀賞 ＜その他の実績＞ ・県畜産共進会 父兄群区最優秀賞4席 ・第19回 鹿児島県乳質向上共励会 最優秀賞1席	養成課程、研究過程を含めて4名が全国プロに出場し入賞した。次年度の出場に向けた指導を継続していく。
			・ヤンマー懸賞論文等応募数 25編以上(学生2割) ・日本農業技術検定3級受験率 100%(R7より) ・各種取得免許・資格数 9資格以上/人	(2) 論文作文コンクール応募への誘導、動機付けの強化 ・校内の応募者を増やす取組として、入学当初から、学生全員に対する作文指導や少数精鋭に対する個別指導を実施。 ・校内プロジェクト・意見発表会への高校生の招聘や学校訪問による研究成果の発表等により入学生の研究意欲を喚起。	2 論文作文コンクール応募数 48編(78編) ＜内訳＞ (1) 第36回ヤンマー学生懸賞論文・作文 論文の部： 3(2)編 ※参考：入賞1(2)編 作文の部： 12(23)編 ※参考：入賞6(7)編 (2) 毎日農業記録賞： 2(3)編 ※参考：入賞1(0)編 (3) 校内論文・作文コンクール 論文の部： 3(2)編 ※参考：入賞3(1)編 作文の部： 28(48)編 ※参考：入賞14(14)編	論文・作文で48編の作品を出品した。引き続き、学生に対する動機付けの強化と、的確な指導を実施する。
				(3) 専攻学習や各講義による農業技術検定3級の取得 ・農業に関する基礎知識の強化	3 日本農業技術検定3級 受験率 受験者 21名/未取得者 53名＝受験率 40%(実人数) ※取得率 取得者 94名/学生数 126名＝取得率 75%	受験への誘導と修得支援の強化を図る。
			・農家留学研修評価書の総合評価 (優秀) 70%以上	2 各種免許、資格取得への取組 (1) 資格取得の推進と意識付けの強化 ・農大マイスター顕彰制度の周知と学生集会等における学生表彰 (2) 職員による希望学生に対する補習 (農業簿記、危険物乙4等)	4 各種免許・資格取得状況 ○ 延べ合格者数 812名/卒業生 70名 ＝1人当たり 11.6資格(10.1資格) 5 合格率向上対策(カリキュラム等による実施、延人数) (1) 農業技術検定3級：17名/25名＝68%(70%) 〃 2級：4名/27名＝15%(30%) 〃 1級：1名/2名＝50%(0%) (2) 農業簿記検定3級：28名/38名＝74%(33%) 〃 2級：1名/2名＝50%(21%) (3) 危険物乙4類：8名/56名＝14%(7%)	免許・資格取得数は目標を達成しており、外部講師招聘による補講体制の構築等を図りながら引き続き合格率の向上に努める。併せて、学生へ資格取得を促し、受験者を増やしていくことも必要。
				3 農家留学研修指導 (1) 専攻学習を通じて基本的な管理作業習得 (2) 農家留学研修の事前研修会の実施 (3) 農家留学研修日誌の模擬記帳指導及び農業機械操作の習熟度アップ	6 農家留学研修事前、期間中、事後の丁寧な対応 ・事前研修の徹底(共通1日、各学科研修を実施) ・受入農家と派遣学生のマッチング及び期間中の迅速なフォロー ○ 農家留学研修評価 優秀 80%(59%)、普通 14%(27%)、要努力 6%(14%)	研修の事前指導を強化するとともに、受入農家との連携を図る。
				4 コミュニケーション力のアップ (1) 各種販売等で挨拶や礼儀作法、接客能力の習得 (2) 3分間スピーチ等でコミュニケーション能力の習得	7 校内販売等の実施 (1) 校内販売実施数：49回(38回)(R7.10から野菜を常時平日販売) (2) 出張販売実施数：11回(15回) 8 3分間スピーチ実施学科(野菜科、肉用牛科)	日頃の農場管理等で話をする場を設けるなど、コミュニケーションの実践を継続する。

＜自己評価まとめ＞
全国プロジェクト発表会や論文作文コンクール等で優秀な成績を収めたことで、本校プロジェクト学習の質・内容の高さを内外に示すとともに、他の学生にとって良い刺激となった。今後もコンクール等への積極的な応募を促していきたい。免許・資格の取得は、就農・就業に役立ち、学生の資質向上にも繋がるため、引き続き取得指導に取り組む。また、農家留学研修の評価は、昨年度より「優秀」の割合が増加した。日頃の学生とのコミュニケーションに留意しながら、学生の「考える・話す・聞く」力の向上に努めていく。

評価指標	目 標	実績(達成率)	達成度	達成度
1 全国プロジェクト発表会出場者	2名以上	4名 (200%)	A	A：100%以上
2 ヤンマー懸賞論文作文等応募数	25編以上	48編 (192%)	A	B：100%未満～80%以上
3 日本農業技術検定3級受験率	100%	40% (40%)	D	C：80%未満～60%以上
4 各種取得免許・資格数	9資格以上/人	11.6 (133%)	A	D：60%未満
5 農家留学研修評価書の総合評価(優秀)	70%以上	80% (114%)	A	

令和7年度 鹿児島県農業大学校評価シート

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況(実績)	次年度の課題と改善策																																																
3 就農・就業の進路指導の充実	進路指導充実による就農率の向上	・農大の目的を達成するために就農希望者の就農率を高めることが重要である。 ・進路が多様化し、進路決定に対する迷いや不安がある。 ・インターンシップ等を活用して就農先を確定するなど非農家出身学生の取組を強化する必要がある。 ・就農準備資金受給希望学生の進路に応じて、資金制度の理解や個別指導を実施する必要がある。 ○就農希望者(就農相談会時点の2年生)の就農率(%) <table><tr><td>年度</td><td>希望者</td><td>就農者</td><td>就農率</td></tr><tr><td>R5</td><td>41(8)</td><td>36(6)</td><td>88</td></tr><tr><td>R6</td><td>45(12)</td><td>45(13)</td><td>100</td></tr><tr><td>R7</td><td>48(9)</td><td>46(11)</td><td>96</td></tr></table> ()はうち自営・親元就農 ※R7年度において、相談会時点では就農希望ではなかったが、最終的に就農した学生が4名。 ○インターンシップ先に就職した学生 <table><tr><td>年度</td><td>インターン</td><td>農家留学</td><td>合計(名)</td></tr><tr><td>R 1</td><td>9</td><td>9</td><td>14</td></tr><tr><td>R 2</td><td>20</td><td>2</td><td>21</td></tr><tr><td>R 3</td><td>20</td><td>6</td><td>22</td></tr><tr><td>R 4</td><td>9</td><td>5</td><td>13</td></tr><tr><td>R 5</td><td>7</td><td>0</td><td>7</td></tr><tr><td>R 6</td><td>28</td><td>7</td><td>35</td></tr><tr><td>R 7</td><td>12</td><td>7</td><td>19</td></tr></table>	年度	希望者	就農者	就農率	R5	41(8)	36(6)	88	R6	45(12)	45(13)	100	R7	48(9)	46(11)	96	年度	インターン	農家留学	合計(名)	R 1	9	9	14	R 2	20	2	21	R 3	20	6	22	R 4	9	5	13	R 5	7	0	7	R 6	28	7	35	R 7	12	7	19	2年生学生数74名(前年度72名) 1年生56名 ○就農希望者(就農相談会時点の2年生)の就農率(%) (研究科4名含む) 就農希望者数48名(前年45名) うち就農46名(45) 就農率96% (100) うち自営11名(13) ○進路確定率100%(前年度100%) 確定数74名(76) ＜参考＞ ○主な進路 就農:50名 (前年45名) うち自営・親元12名 うち雇用就農38名 関連・一般企業の生産部門従事3名含む 農業団体: 5名(11) 関連企業: 5名(10) 一般企業等:1名(2) 公務員: 7名(3) 〔中退1名(外数)〕 進学・研修: 6名(5)	1 進路への早期動機付け (1) サポート体制の充実 ①担任等の就農相談活動の充実 ・個別面談での学生の就農に対する考え方の把握と支援 ②農業法人等との面談の実施 ・就農就業相談会の充実 ・個別面談の推進 ・かごしま就農・就業相談会への参加 ③進路決定に対する意識啓発 ・就職研修会等の実施 ・進路支援セミナーの実施 ④就農準備資金活用指導(在学中) ・資金研修会による理解促進 ・申請時、給付後の個別指導 (2) 早い段階での学生の就農・就業に対するイメージづくり ⑤意向調査、面談の実施 就職・就農事前研修会 ⑥休業期間中のインターンシップへの参加支援 2 就職試験に対する指導強化 (1) ビジネスマナー講座(接遇研修会他)の実施 (2) 一般常識トレーニング研修の実施 (3) 就職情報コーナーの設置運用 求人内容等の情報提供 3 経営基盤のない新規就農希望者の支援体制の強化(非農家出身学生等) (1) 就農就業相談会等による地域との連携強化 (2) 農業経営の第三者継承に係る関係機関との連携強化	(1) サポート体制の充実 ①担任等からの情報提供と進路指導(随時) 二者面談等学生進路指導学生数 <2年生>進路確定74名／74名中 ②就農就業相談会(R7.6.10開催) ・農業法人・関連企業:72社参加(前年度71社) ・関係機関・団体(振興局等):23団体参加(23団体) ・農業法人訪問学生数 延べ305名:2.3法人/人(2.3) ・全体ブース訪問学生数 延べ606名:4.7法人/人(4.0) (夏期休暇前に法人との個別面談、インターンシップを推進) ③進路決定に対する意識啓発(1年生対象) ・就職研修会(R7.12.5開催) 講師:鹿児島労働局 雇用環境・均等室 講師:伊集院公共職業安定所 ④就農準備資金活用指導 新規申請者 1年生14名(32), 2年生0名(2) 計14名(34) 継続申請者 2年生32名(34) 計46名(68) ○親元(三親等内)就農・自営就農確定者の経営計画作成支援:5件(関係機関との打合せ・カウンセリング回数:延べ50回以上) (2) 早い段階での学生の就農・就業に対するイメージづくり ⑤かごしま就農・就業相談会への参加(R7.8.31開催) 14名(7名):カクイクス交流センター(主催:鹿児島県農業・農村振興協会) ⑥インターンシップ実施状況 ○<2年生>農学部延16名,畜産学部延18名 合計34名/事業所数19社 ○インターンシップ先に就職した学生数:12名、農家留学先就職:7名 ○<1年生>インターンシップ実施学生数:2名/事業所数2社 (1) 接遇研修会(R7.7.18,R8.2.9開催)56名受講(69名) (2) 一般常識トレーニング研修 1年生(茶1名,酪1名),2年生(肉2名,酪1名)(前年度計3名) 公務員等試験合格を目指して通信教育を活用した一般常識の習得:一般常識2回,SPI(総合適性検査)模擬テスト3回,作文添削2回 (3) 職員室(求人票,情報資料等)に設置運用 学生への求人等情報提供:177件(1月27日現在)(234件) (1) 就農相談会等による地域との連携 各振興局及び市町村から就農就業担当者との管内農業情勢等についての情報共有と相談の実施 ○非農家出身(41名)の就農確定者:23名(非農家出身就農希望者(相談会時点)23名のうち就農確定者は21名) (2) 農業経営の第三者継承に係る関係機関との連携強化 第三者継承希望農家とのマッチングに係る支援(農・農協会、農政普及課、市町との連携):1名(2年生)成立見込み(マッチング支援計3件)	1 引き続き、個別面談、意向調査、農業法人等との面談機会の設定を実施し、就農希望者に対しては、早い段階から就農意識の醸成とマッチングの強化を図り、卒業時の就農率を100%達成できるように指導する。 2 1年時から進路への意識づけを積極的・継続的に行い、インターンシップを計画的に実施することで就職・就農を支援する。特に1年時の冬休み、春休みの長期休暇を利用した取組を促す。 3 引き続き、定期的な面談の実施、研修・研鑽の機会をつくりながら、学生の希望を汲み取り、意向に沿った各種研修への参加と就業活動を促す。 4 振興局等関係機関との連携をさらに強化し、情報共有を図りつつ、新規就農を支援する。
		年度	希望者	就農者	就農率																																																	
		R5	41(8)	36(6)	88																																																	
R6	45(12)	45(13)	100																																																			
R7	48(9)	46(11)	96																																																			
年度	インターン	農家留学	合計(名)																																																			
R 1	9	9	14																																																			
R 2	20	2	21																																																			
R 3	20	6	22																																																			
R 4	9	5	13																																																			
R 5	7	0	7																																																			
R 6	28	7	35																																																			
R 7	12	7	19																																																			

<自己評価まとめ>
個別面談、意向調査、就農相談会等での農業法人・関連企業等との面談機会の設定、インターンシップの参加支援などにより、早い段階からの就農・就業に向けた動機づけ・意識啓発がなされ、相談会時点での就農希望者数に占める就農確定者数は96%となった。また、丁寧な進路指導に努めた結果、卒業時点の進路確定率は100%と目標を達成した。近年増加傾向にある非農家出身学生への支援について、雇用就農への誘導や、進学、公務員など多様な進路にも対応できた。今後も学生の進路希望に応じた支援体制を充実させる必要がある。

評価指標	目 標	実 績	達成度	達成度
1 就農希望者のうち就農者率	100%	96%	B	A : 100%以上 B : 100%未満～80%以上 C : 80%未満～60%以上 D : 60%未満
2 卒業時点での進路確定率	100%	100%	A	

令和7年度 鹿児島県立農業大学校評価シート

目標	課 題	現 状	評 価 項 目	具 体 的 方 策	進 捗 状 況	次年度の課題と改善策
4 情報発信の強化	魅力ある農大を発信	・これまでの農大における情報発信の取組概要	1 公式Instagram	1 Instagramのフォロワー数の増加 (1) 農大内の情報収集・発信体制の充実によるフォロワー数(R6:1,477名)と年間更新回数(R6:153回)の増加 (2) ターゲット層(若い年齢層)に合わせた情報発信(寮生活、部活動などの配信) ※一部ライブ配信 (3) 日置市広報を活用した農業大学校InstagramのPR	1 Instagramのフォロワー数の増加 (1) 更新数を増加させるために、チーム会で検討(5月) ・フォロワー数:3,243名(R8年3月31日時点) ・更新回数:338回(R8年3月31日時点) (2) 様々な場所・場面で学生生活の写真(農場、寮、講義、発表会、農大祭、販売、機械稼働等)を掲載 AI(人口知能)を活用するなど発信力を強化。 (3) 日置市市報を活用した農業大学校InstagramのPR (4) その他 関係する関係機関の情報を得るため、各地域振興局等のInstagramのフォローを実施(R8.2月)	(次年度の課題) 課題・取組み 新入生へのアンケートを基に、高校生のニーズに合わせた更新を行う。 また、農大で実施する社会人研修等でもInstagramを幅広く紹介していく。 〈目標〉 ○フォロワー数 3,500名
	1 公式Instagramのフォロワー数の更なる増加に向け、学生の意見等を取り入れる必要がある。	①県HPに「学生募集」や、イベント情報(入学式、卒業式等)などの掲載 ②プロジェクト発表の入選者や学生が取り組んだ行事(農大祭等)を盛り込んだ冊子(農大この1年)を関係機関、高校等に配布 ③直近の農大生の活動状況等を盛り込んだ「アシスターレター」を卒業生等に配信	2 農大紹介ビデオ活用数 (R6実績:36回)	2 農大紹介ビデオ(動画)等の活用 (1) 引き続き各種行事でフル活用 ＜活用目標＞ ○進路ガイダンス 15回 ○農大視察研修 10回 ○オープンキャンパス 3回 ○農大祭、連携会議等 5回	2 農大紹介ビデオ(動画)等の活用 (1) 学校訪問等で動画を積極的に活用 (2) 職員で学校紹介動画(かんたんに、分かる農大紹介)を作成 【R7農大紹介ビデオ(動画)等の活用(R8.1.21時点)】 ○進路ガイダンス 4回 (参考)職員作成農大紹介動画 ○農大視察研修 13回 ○オープンキャンパス 4回 ○農大祭、連携会議等 16回 計37回 ※前年35回 (3) その他(学校紹介) 新たにデジタルサイネージを導入(同窓会寄贈) 農大祭(R7.12月)・新入生説明会(R8.2月)等での活用	(次年度の課題・改善策) 課題・取組み 学校紹介動画等の積極的な活用を図る。 また、新たにのぼりの作成・活用を図る。 ＜動画活用目標＞ ○進路ガイダンス 15回 ○農大視察研修 10回 ○オープンキャンパス 3回 ○農大祭、連携会議等 5回 計 35回
	2 農大紹介ビデオを様々な人に見てもらい魅力を知ってもらう必要がある。	・上記の取組は行っているが、学生の農大での活動を得る機会が少ない。	3 県ホームページの適期更新 (内容充実) (R6実績:25回)	3 県ホームページの適期更新(内容充実) (1) HPの内容充実 ・時期ごとに主要行事等をHP先頭ページ等に貼り付け ・各科別の内容(情報等)充実 ＜活用目標＞ ○学生募集 3回 ○イベント報告等 14回 ○教育のとりくみ等8回 ○合計 25回 (2) オープンキャンパスの電子申請とアンケートの実施	3 県ホームページの適期更新(内容充実) (1) 各科特徴的な取組みを適期更新 主要行事等をHP先頭ページに貼り付け (参考)農大HP二次元コード ＜活用実績＞ ○学生募集 4回 ○イベント報告等 14回 ○教育のとりくみ等57回 ○合計 75回 (2) オープンキャンパスの申込みを電子申請で行えるように変更 また、新入学生を対象にアンケート実施(R8.2月) 約75%の入学予定者が電子申請は簡単であったと回答	(次年度の課題・改善策) 課題・取組み 適期更新を図るとともに、HPの内容充実に務める。
	3 必要な情報が掲載されているホームページを目指していく必要がある。	⇒ 入学確保のターゲットとなる若い年齢層に魅力ある農大を発信できていないのでは？				

〈自己評価まとめ〉

- ・定期的にチーム会を開催し、取組みを検討した他、進捗状況を共有した。
- ・Instagramのフォロワー数については、従来の発信に加え、AIを活用することで、入学希望者が求めている情報を発信することができた。
- ・農大紹介ビデオ等の活用としては、新たな取組みとして、職員で学校紹介動画を作成し、鹿児島県公式YouTubeなどにも掲載することができた。
- ・県ホームページの更新数の増加としては、各科特徴的な取組みを適期更新した他、オープンキャンパスの電子申請を実現することができた。

評価指標	目標	実績	達成度	達成度
1 公式Instagramフォロワー数	1,800名以上	3,243名	A	A:100%以上 B:100%未満~80%以上 C:80%未満~60%以上 D:60%未満
2 農大紹介ビデオ活用数	35回	37回	A	
3 県ホームページの適期更新数	25回以上	75回	A	